近江八幡

近江八幡市豊かな杜づくり隊

観音寺城の大石垣が新幹線から見えるように里山の自然環境を整備。史跡、古道を蘇らせる。

左）観音寺城跡図、多くの郭があったことが分かる　右）観音寺城がある繖山の全景　中下）追手道でマイ階段を作るボランティア　右下）これだけのボランティアが集まった！

近江八幡市安土の観音寺城は、日本で最初の石垣でつくられた山城。
その歴史的価値は高く、日本の百名城にも選ばれている。
豊かな杜（もり）づくり隊は、繖山（きぬがさやま）に広がるこの城跡と里山の自然環境を整備し、
多くの人に親しまれる地域の宝として維持し、次代に伝えていこうと活動している。

まちづくりの主役は市民 里山の保全を自らの手で

――豊かな杜づくり隊は、どのように設立されたのですか？

市長が示したローカルマニフェストの1項目として、「近江八幡市豊かな杜づくり隊」は2011年9月に設立されました。市民がまちづくりの主役となって、地域の歴史遺産や自然資源を次世代に伝えていこうと、メンバーを募集し、市の補助を受けて里山保全活動をスタートさせました。募集に応じた有志は約20人。このメンバーが月1回程度集まり、調査、保全活動を行いつつ、年に数回、啓発イベントや地元の方々と協力して整備活動に汗を流してきました。

古道・景清道（かげきよみち）ふたたび 雑木を除き、散策の道に

――具体的にどんな整備保全活動を行ってこられたのでしょう？

主な活動地は、安土地域にある繖山山系です。繖山の観音寺城は南北朝時代に築かれた、近江守護佐々木六角氏の居城で、山頂から南山麓にかけて、数多くの郭（くるわ）が広がる大きな山城。日本で最初に石垣で築かれた城郭（じょうかく）です。

まず、12年に佐々木六角氏の御屋形跡の草刈りなどを行い、翌年には「古道・景清道復活プロジェクト」に着手しました。

景清道は、平安時代末期から鎌倉時代の武将・平景清が、平氏再興を京都・清水寺に祈願するために通ったと伝えられる古道で、繖山の山麓を通っているのですが、長年放置されていたため、竹や雑木が通行を妨げていました。これを、地元の方々の参加も募り、計5回の伐採・整備作業で、1.6㎞を人が歩ける状態に復活させました。また、林道の入り口になる鳥打峠に山桜と紅葉を30本ほど植樹しました。

しかし、市からの3年間の補助が終了したこの段階で、活動を整理することも実は考えていました。

石垣を見えるようにしよう 地元有志の提案が転機に

――それが、活動をさらに発展することになったのは、どうしてですか？

地元の企業の方から〝頂上付近の観音寺城の大石垣を、新幹線から見えるように〟というアイデアを得て、この活動に大きなロマンとやりがいを感じるようになりました。さらに、社会貢献（CSR）活動として地元企業の支援を受けることが決まりました。これらのことが転機となったのです。

地元からこのような後押しを新たに得て、14年は御屋形跡の高石垣を見えるようにする作業に本格的に取り組み始めました。翌年は、琵琶湖およびその流域の自然環境の保全活動を支援する平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」の助成を受けることもできました。新幹線から石垣が見えるようにして、乗客にアピールしようというプロジェクトに発展していきます。

15年11月には地元住民や企業の方々170人以上が参加し、城内最大級の大石垣の手前の樹木を伐採すると同時に、御屋形跡から大石垣へと登る古道「追手道」では、歩きやすいように〝マイ階段〟をつくる作業を数人ずつの班に分かれて行いました。そして、現れた大石垣の地面に地元中学校書道部による「観音寺城」と書いた幟（のぼり）を立てました。すると幟付近の石垣が本当に新幹線から確認できたのです。とんでもないと思えるプランも、多くの人の力を借りれば実現できることを体験できました。

16年度は追手道で、春に38本の桜を、秋には220本の紅葉の植樹を行いました。また、この秋から国際学生ボランティア協会の滋賀草津クラブのメンバーである立命館大学の学生たちが、景清道の整備に協力してくれていて、大変心強く思っています。

線から面に広がる整備活動 もっと里山に親しむ機会を

――豊かな杜づくり隊の活動は、年々、成長してきたのですね

一つの場所をきれいにする〝点〟の活動から、景清道の〝線〟へ。さらに、山全体の〝面〟へと広がってきました。参加者も有志メンバーだけで始めたものが、一緒にやりたいと手を挙げてくれる方が増え、地元の老蘇（おいそ）・安土学区まちづくり協議会などとの協力関係もできました。登山道のマイ階段をつくるという、この地域らしい独自の工夫もできました。

――今後の活動のプランは？

子供たちに里山の自然に親しんでもらう活動に力をいれていきます。昨冬から始めた「ちびっ子シイタケ体験活動」を、この冬も行います。繖山から切り出した原木に、子供たちが種菌（たねきん）を植え付け、家でシイタケを育てて収穫してもらうというものです。整備した古道を巡る散策コースを親子で歩く体験学習会も計画しています。山林は人が入れば入るほど、人に近寄ってきます。入らなければ、どんどん荒れます。子供の時に登った記憶が、大人になっても山に近づくきっかけになってほしいと思っています。

もちろん、植樹も続けます。案内看板の設置もしていきます。石垣も新幹線からもっと見えるようにして、ここに安土の宝があることを多くの人に知ってもらいたい。観音寺城跡の文化的、史跡的な価値は非常に高いことは間違いないのですから。ただし、里山の自然は一度きれいにすればそれでいいというものではなく、維持メンテナンスを続けていかなければなりません。そのためにも、高齢者が多い現メンバーの後継者を育てることが大きな課題です。

景清道を整備する大学生ボランティア

作業前には見えなかった佐々木六角氏御屋形跡の石垣が現れる

近江八幡市豊かな杜づくり隊
▼近江八幡市安土町常楽寺323

代表
木野 和也氏
（きの・かずや）